

序 文

本書は、小郡市三沢における住宅建築に先立って小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。本遺跡が所在する小郡市北西部の三沢には、基山からなだらかに東側に延びる通称三国丘陵が広がり、弥生時代を中心とした数多くの遺跡が発見されています。三沢寺小路遺跡は、その丘陵から南東に延びた低台地上にあり、これまで周辺でも多くの調査成果が確認されています。

今回の調査の中心となるのは中世の溝です。中でも2号溝状遺構は大規模な区画溝と考えられ、周辺に残る「善風寺」の伝承との関係が推測されます。今回得られた内容が今後永く活用され、この報告書が文化財愛護思想の普及に寄与することになれば幸いです。

最後に、現地発掘調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民のみなさま、そして現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

令和2年3月31日

小郡市教育委員会
教育長 秋永 晃生

例 言

1. 本書は、小郡市三沢地内における住宅建築事業に伴って、小郡市教育委員会が平成30年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 遺構の写真撮影は大城麻未、杉本岳史が行った。
3. 遺構実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、永富加奈子、山川清日、牛原真弓、林知恵ら諸氏に多大なる協力を得た。
4. 遺物の写真撮影は（有）システム・レコに委託した。
5. 遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第Ⅱ座標系に則っている。
6. 遺物・実測図・写真は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
7. 本書の執筆及び編集は、杉本が担当した。

本文目次

第1章 調査の経過と組織	1
第2章 位置と環境	1
第3章 遺構と遺物	3
1. 土坑	3
2. 溝状遺構	4
3. その他	6
第4章 まとめ	11
出土遺物観察表	13
写真図版	

挿図目次

第1図 三沢寺小路遺跡調査区位置図(1/3,000)	2
第2図 三沢寺小路遺跡周辺の主要遺跡分布図(S=1/25,000)	2
第3図 三沢寺小路遺跡7全体図(S=1/50)	折り込み
第4図 1号土坑実測図(S=1/40)	3
第5図 1号溝状遺構実測図(S=1/40)	4
第6図 1・3～5号溝状遺構土層断面実測図(S=1/40)	5
第7図 2号溝状遺構土層断面実測図①(S=1/40)	7
第8図 2号溝状遺構土層断面実測図②(S=1/40)	8
第9図 5号溝状遺構遺物出土状況実測図(S=1/40)	8
第10図 溝状遺構・ピット出土遺物実測図(S=1/4)	9
第11図 溝状遺構・ピット出土瓦類実測図(S=1/4)	10
第12図 三沢寺小路遺跡遺構配置図(S=1/2,500)	12

図版目次

図版1①西側調査区全景(南から)	②西側調査区全景(北から)
図版2①東側調査区全景(南から)	②東側調査区全景(北から)
図版3①1号土坑土層断面(南から)	⑤2号溝完掘(南から)
②1号土坑完掘(南から)	⑥2号溝ベルト土層(南から)
③1号溝完掘(南西から)	⑦2号溝北端土層(南から)
④1号溝完掘(東から)	⑧3号溝完掘(北東から)
図版4①4号溝完掘(西から)	⑤3・5号溝土層断面(東から)
②5号溝完掘(東から)	
③5号溝東側調査区完掘(東から)	
④5号溝東側調査区遺物出土状況(南東から)	
図版5出土遺物	

第1章 調査の経過と組織

1. 調査に至る経緯

今回の開発事業に関する当該地の事前審査は、平成30年3月9日付で「埋蔵文化財の有無とその処置について（照会）」（事前審査番号17162）の申請が、地権者名で提出されたことに始まる。これを受けて小郡市教育委員会は試掘調査を実施し、掘削予定範囲171.6㎡全体に遺跡が存在することを確認した。地権者との協議の後、平成30年7月2日付で発掘調査に着手した。

2. 調査の経過

調査の対象としたのは、住宅建築によって遺跡が壊される171.6㎡である。現地調査は平成30年7月2日に着手し、平成30年8月6日に終了した。調査の主な経過は以下の通りである。

平成30年7月2日：調査着手。表土剥ぎにより、多くの遺構を抽出。

7月9日：大雨の影響により、ようやく作業員を投入して西側調査区から掘削作業開始。

7月11日：東側調査区2号溝状遺構の掘削開始。

7月17日：遺構の写真撮影開始。

7月21日：西・東両調査区の完掘写真撮影。

8月6日：実測・測量終了。埋め戻し。

3. 調査の組織

平成30年度、令和元年度の三沢寺小路遺跡7発掘調査に関係する組織は以下のとおりである。

【小郡市教育委員会文化財課】

<平成30年度>

教育長 清武輝
教育部長 黒岩重彦
文化財課 課長 柏原孝俊
係長 杉本岳史（調査担当）
技師 稲村麻未（調査担当）

<令和元年度>

教育長 清武輝（～令和元年9月）
秋永晃生（令和元年10月～）
教育部長 黒岩重彦
文化財課 課長 柏原孝俊
係長 杉本岳史（整理担当）

第2章 位置と環境

三沢寺小路遺跡7(1)は、小郡市三沢権道67番1の1に所在する。遺跡は、小郡市の中央を南流する宝満川の右岸、通称三国丘陵から南東に派生する中位段丘の縁辺部に位置し、北西から南東に延びる舌状台地上にある。これまで6次の調査が行われ、縄文時代と考えられる落とし穴状遺構や古墳時代後期の集落が確認されているが、その中心となるのは中世の遺構群である。

まず、注目される遺構に、3・4次調査で確認された南北及び東西の正方位に乗る区画溝がある。内部の区画は、東西71～74m、南北25m以上を測る。大きさは幅約2m、深さ約1mで、時期は14世紀と考えられる。また、2次調査では、南に隣接する三沢権道遺跡2地点へと続く区画溝も確認された。2次調査では、この溝に沿って配置された土坑群も確認されており、土壙墓の可能性が指摘されている。

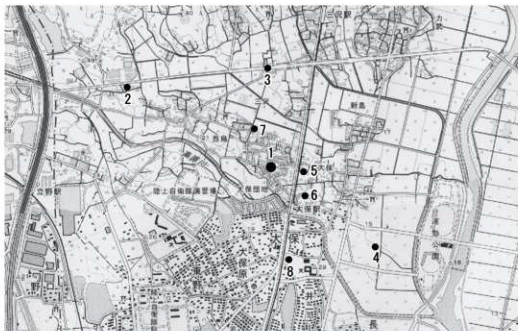
この遺跡周辺では多くの中世の遺跡が確認されている。西島遺跡3区(2)では、土坑8基・木棺墓1基などが検出された。土坑は12世紀前半から13世紀中頃に位置付けられ、木棺墓からは副葬品の鉄刀・白磁・土師器皿とともに、鉄釘14本が出土している。三沢宮ノ前遺跡2～4区(3)では、区画溝とともに、掘立柱建物群6棟が確認された。建物は、庇を持つ2間×2間の総柱建物1棟と、3間×2間の大型側柱建物

1棟、他に3間×1間や2間×2間の側柱建物などがある。いずれも南北に走る大型区画溝と軸を揃えて配置され、遺跡内からは井戸も検出された。時期は13世紀前半頃と考えられる。大保横枕遺跡2地点(4)では、11世紀から13世紀後半にかけて集落が営まれていた。中でも12世紀後半に南北約60m、東西は75m～100m以上に及ぶ区画溝が掘削される。この区画は13世紀前半まで機能し、内部にはさらに小型の区画や掘立柱建物群が確認できる。三沢権道遺跡(5)でも各調査区で中世の遺構が確認されており、2区は三沢寺小路遺跡と同一の集落と考えられる。平成30年度に調査された4区では、南北方向の区画溝とともに、4棟の側柱建物群が確認された。大保西小路遺跡(6)では、溝や土坑とともに、鍛冶関連遺構が発見された。土坑のうち6基は地下式横穴墓と考えられ、一部13世紀の遺構もあるが、中心となるのは15世紀である。2号地下式横穴墓からは五輪塔が、10号地下式横穴墓からは青銅製掛仏が出土している。同じく墓地として、三沢畷道遺跡(7)を挙げる事ができる。この遺跡では、方形周溝墓3基を検出した。これらは、弥生時代終末から古墳時代初頭の方形周溝墓を再利用して造っている。規模はいずれも一辺3～4m程度と小型で、4号周溝墓の主体部である木棺墓から青磁碗や高麗青磁が出土している。

これらの遺跡の変遷を見ると、1359年にここ小郡であった九州南北朝最大の戦い「大保原(大原)合戦」が大きな画期となっている。大原小学校校庭には、亡くなった武将の塚と伝わる「善風塚」(8)もあり、この戦いが地域に与えた影響の大きさを見ることができる。



第1図 三沢寺小路遺跡調査区位置図 (S=1/3,000)



第2図 三沢寺小路遺跡周辺の主要遺跡分布図 (S=1/25,000)

第3章 遺構と遺物

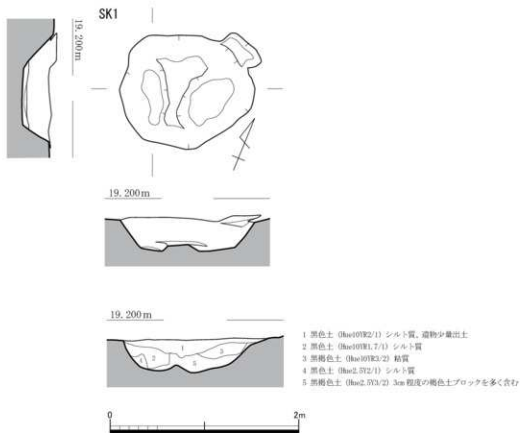
三沢寺小路遺跡7で検出した主な遺構は、土坑1基と溝状遺構5条である。遺構の時代はいずれも中世で、過去の周辺の調査結果と合致する。遺構の中でも2号溝状遺構は非常に大型で、区画溝である可能性が指摘される。

出土遺物は少量だが、瓦類が比較的多い。当地は善風寺推定地から南に約50m離れているが、同時期の関連する施設が存在した可能性も考えられる。

1. 土坑

1号土坑（第4図、図版3）

西側調査区の南部に位置し、検出面の標高は19.0mを測る。遺構は楕円形状を呈し、大きさは上端が1.42m×1.20mを測る。下端は中央が高く、東西が低い。東側平坦面は、大きさ60×34cmである。壁面はなだらかに立ち上がり、深さは最大33cmである。出土遺物は、土師器小片が出土したが、詳細は不明である。



第4図 1号土坑実測図 (S=1/40)

2. 溝状遺構

1号溝状遺構（第5・6図、図版3）

西側調査区の北西部に位置し、検出面の標高は19.1mを測る。遺構は北側・西側とも調査区外に延び、全容は不明である。3・5号溝状遺構を切る。大きさは、現状で南北4.08m、東西1.96mを測る。南東隅部は約115°を測り、やや鈍角に屈曲する。幅は東辺がやや狭く、上端87cm、下端32cm、南辺は上端137cm、下端46cmを測る。深さは最大46cmである。

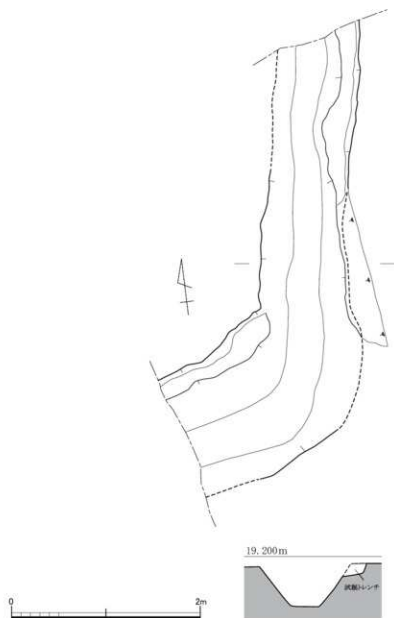
出土遺物

土器（第10図、図版5）

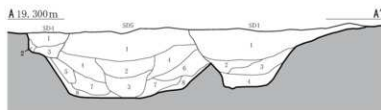
第10図1は白磁の碗で、高台部径4.3cmを測る。2は瓦質土器火鉢の胴部である。現状で最大径29.4cmを測る。下位に断面台形状の突帯を1条有する。

瓦（第11図、図版5）

第11図1は平瓦片で、広端部と側端部1面が残る。端部はいずれもヘラ切りで、広端部には布目痕が見られる。凹面には板状工具によるナデを施す。



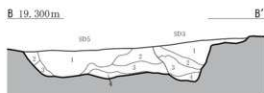
第5図 1号溝状遺構実測図 (S=1/40)



- 【S21】
- 1 暗緑褐色土 (Ihae7.5)R2/4) シルト質
 - 2 暗緑褐色土 (Ihae7.5)R2/4) 1層より均質、シルト質
 - 3 黒褐色土 (Ihae7.5)R3/2) シルト質
 - 4 黒褐色土 (Ihae10)R2/2) シルト質

- 【S25】
- 1 黒褐色土 (Ihae10)R3/2) しまりあり、シルト質
 - 2 黒褐色土 (Ihae10)R3/2) シルト質
 - 3 黒褐色土 (Ihae10)R3/2) シルト質

- 【S21】
- 1 黒褐色土 (Ihae10)R2/2) しまりあり、シルト質
 - 2 黒褐色土 (Ihae10)R2/2) しまりあり、シルト質
 - 3 黒褐色土 (Ihae10)R2/2) 粘性が高い、シルト質
 - 4 黒褐色土 (Ihae10)R2/2) 5cm 大の褐色ブロックを含む、シルト質
 - 5 黒褐色土 (Ihae10)R2/2) 均質、シルト質
 - 6 黒褐色土 (Ihae10)R2/2) シルト質
 - 7 黒褐色土 (Ihae10)R7/1) 粘性が高い、シルト質
 - 8 明黄褐色土 (Ihae10)R6/4) 水が湧く、シルト質



- 【S25】
- 1 暗緑褐色土 (Ihae10)R3/2) シルト質
 - 2 暗緑褐色土 (Ihae10)R3/2) シルト質
 - 3 暗緑褐色土 (Ihae10)R3/2) 1・2層より均質、シルト質
 - 4 暗緑褐色土 (Ihae10)R3/2) 4cm 大の明黄褐色ブロックを含む、シルト質

- 【S21】
- 1 暗緑褐色土 (Ihae7.5)R2/3) シルト質
 - 2 黒褐色土 (Ihae10)R2/2) 5cm 大の褐色ブロックを多く含む、シルト質
 - 3 黒褐色土 (Ihae10)R2/2) シルト質
 - 4 明黄褐色土 (Ihae10)R6/4) シルト質、土器片を含む



第6図 1・3～5号溝状遺構土層断面実測図 (S=1/40)

2号溝状遺構（第3・7・8図、図版3）

東側調査区の約1/2を占める大型の遺構で、検出面の標高は19.0mを測る。5号溝状遺構を切る。遺構は南北方向に延び、現状で検出面の長さ6.62m、幅3.40mを測る。下端は最大幅1.46mだが、常に水を流し、明瞭でない。深さは最大1.36mである。壁面はなだらかに立ち上がり、東西両壁とも中段を持つ。埴土はレンズ状堆積で、調査区北端土層の16層の上、バルト土層の11・14・15・18層の上で掘り直しが行われたと考えられる。遺物は、上・中・下層全体的に少量出土した。

出土遺物

土器・磁器（第10図）

第10図3～5は上層、6は中層、7・8は下層出土遺物である。3は青磁の碗、4は土師質の鍋、5は東播系の摺鉢である。6は土師質の摺鉢で、内面に摺目がある。7は土師質の坏か。8は瓦質土器の摺鉢で、内面に摺目がある。9・10は出土層位不明で、9は染付の皿である。10は土師質の摺鉢で、口縁部は内側につまみ上げる。

瓦（第11図、図版5）

第11図2～4は中層出土、5は下層出土、6は出土層位不明である。2・3は平瓦で、いずれも狄端部と側端部1面が残る。端部はヘラ切り後ナデである。4は丸瓦で、凹面に布目痕が見られる。5は広端部と側端部1面が残る。端部はいずれもヘラ切りで、広端部には布目痕が見られる。凹面には板状工具によるナデを施す。6は平瓦で、狄端部が残る。端部はヘラ切り後ナデである。

3号溝状遺構（第3・6図、図版3）

西側調査区の北部に位置し、検出面の標高は19.0mを測る。5号溝状遺構を切り、1号溝状遺構に切られる。遺構は北側調査区外に延び、全容は不明である。大きさは、現状で南北2.80m、東西3.96mを測る。南東隅部は鈍角になだらかに曲がる。幅は上端64cm、下端34cmを測り、深さは最大42cmである。

出土遺物

土器（第10図）

第10図11は土師器の皿で、底部裏面に回転糸切りの痕が残る。

4号溝状遺構（第3・6図、図版4）

西側調査区の南部に位置し、検出面の標高は19.0mを測る。5号溝状遺構を切る。遺構は直線的に東西方向に延びるが、残存状況が悪い。現状で、長さ2.21m、幅0.38mを測り、深さは最大8cm程度である。

出土遺物

瓦（第11図）

第11図7は平瓦である。側端部1面が残る。端部はヘラ切り後ナデである。

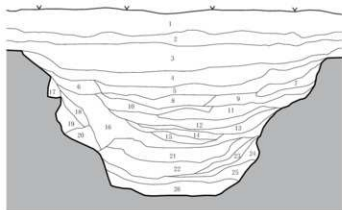
5号溝状遺構（第3・6・9図、図版4）

両調査区にまたがる遺構で、検出面の標高19.0mを測る。1～4号溝状遺構に切られる。遺構は東西方向に延び、西側は調査区外へ続く。東側は2号溝状遺構の東に続かないので、この溝状遺構と一体の遺構である可能性がある。遺構の大きさは、現状で長さ8.55m、幅2.21mである。床面は幅1.46mを測り、南側は一段深くなっている。なお、下端の調査区西端部が土坑状に深くなっているが、正確は不明である。東側調査区は北側が深くなっており、そこから遺物がまとまって出土した。

SD2 調査区北端土層

Ø 19,700mm

Ø'



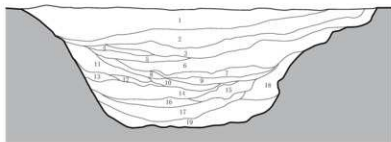
- 1 灰白色土 (Soe077/1) 表土
- 2 灰オリーブ色土 (Soe073/3) 土層目を少量含む
- 3 オリーブ褐色土 (Soe2.074/3) シルト質
- 4 暗オリーブ褐色土 (Soe2.073/3) シルト質
- 5 暗オリーブ褐色土 (Soe2.073/3) シルト質
- 6 暗オリーブ褐色土 (Soe2.073/3) 第4層に近い
- 7 明黄褐色土 (Soe2.076/3) 均質、シルト質
- 8 暗オリーブ褐色土 (Soe2.073/3) 第5層に近い
- 9 黒褐色土 (Soe2.073/2) 5~10cm大の黒色ブロックを多く含む、シルト質
- 10 オリーブ褐色土 (Soe2.074/2) シルト質
- 11 オリーブ褐色土 (Soe2.074/3) 粘性が低い
- 12 オリーブ褐色土 (Soe2.074/2) 第1層に近い、粘性が低い
- 13 オリーブ褐色土 (Soe2.074/2) 第12層に近い、粘性が低い
- 14 黄褐色土 (Soe2.075/3) 均質、粘性が低い
- 15 に高い黄褐色土 (Soe2.075/4) 細粒の砂利の層
- 16 灰オリーブ色土 (Soe075/3) 均質、粘性が低い
- 17 暗オリーブ褐色土 (Soe2.073/3) しまりあり
- 18 暗オリーブ褐色土 (Soe2.073/3) しまりあり
- 19 暗オリーブ褐色土 (Soe2.073/3)
- 20 灰オリーブ色土 (Soe075/3) 粘性が低い
- 21 に高い黄褐色土 (Soe2.075/4)
- 22 暗褐色土 (Soe1074/1) 粘性が低い
- 23 に高い黄褐色土 (Soe1075/2) 均質、シルト質
- 24 に高い黄褐色土 (Soe1075/2) シルト質
- 25 褐色土 (Soe1074/4) 粘性が低い
- 26 褐色土 (Soe1074/4) 水が染み出す

第7図 2号溝状遺構土層断面実測図① (S=1/40)

SD2 ベルト土層

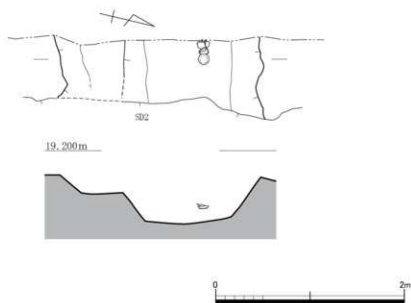
C 19,300m

6'

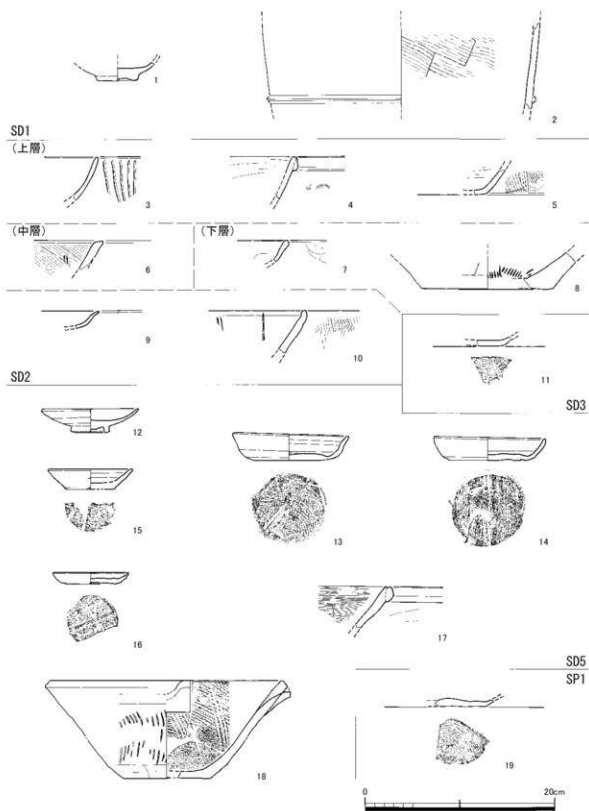


- 1 オリーブ褐色土 (ha2.014/2) しまりあり、シルト質
- 2 オリーブ褐色土 (ha2.014/3) 5cm 大の黄褐色ブロック・5~10cm 大の赤褐色ブロックを多く含む、しまりあり、シルト質
- 3 オリーブ褐色土 (ha2.014/3) 5cm 大の黄褐色ブロックを少量含む
- 4 オリーブ褐色土 (ha2.014/3) 均質
- 5 オリーブ褐色土 (ha2.014/4) 均質
- 6 オリーブ褐色土 (ha2.014/4) 5cm 大の黄褐色ブロックを多く含む
- 7 黄褐色土 (ha2.015/2) 均質
- 8 暗灰黄色土 (ha2.015/2) 均質
- 9 黄褐色土 (ha2.015/4) 均質
- 10 暗灰黄色土 (ha2.015/2) 均質、粘性が高い
- 11 黄褐色土 (ha2.015/2) 均質
- 12 黄褐色土 (ha2.015/2) 均質
- 13 灰黄色土 (ha2.016/2) 均質、しまりあり
- 14 オリーブ褐色土 (ha2.014/3) 砂利を含む
- 15 黄褐色土 (ha2.015/2) 厚層に広い
- 16 暗灰黄色土 (ha2.015/2)
- 17 オリーブ黄土 (ha2.013/2) 均質、粘性が高い
- 18 灰オリーブ色土 (ha2.014/2) 均質
- 19 灰オリーブ色土 (ha2.014/2)

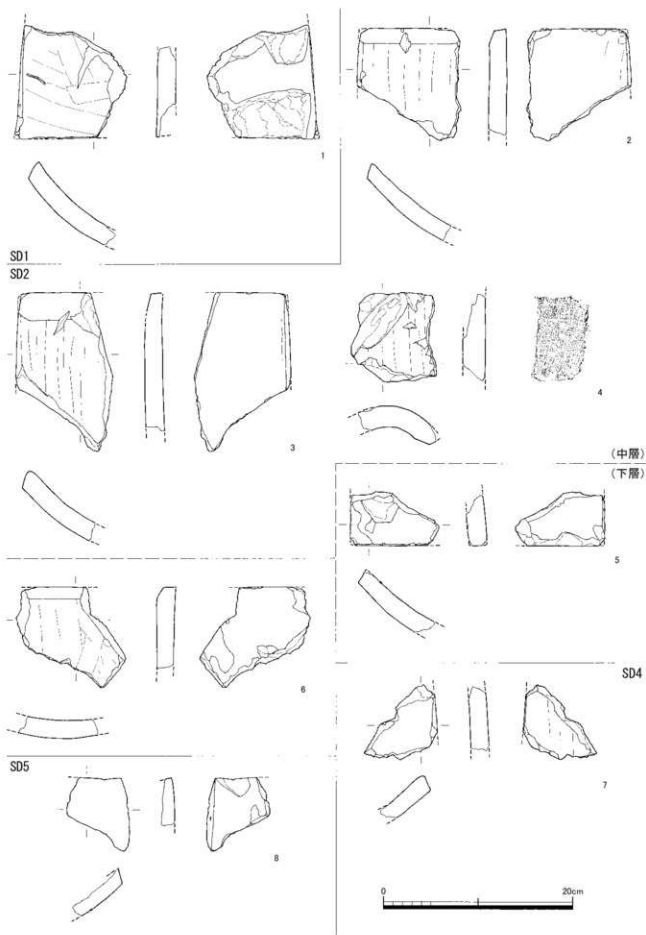
第8図 2号溝状遺構土層断面実測図② (S=1/40)



第9図 5号溝状遺構遺物出土状況実測図 (S=1/40)



第10図 溝状遺構・ピット出土遺物実測図 (S=1/4)



第11図 溝状遺構・ピット出土瓦類実測図 (S=1/4)

出土遺物

土器・磁器（第10図）

第10図12は白磁の皿である。口径10.4cm、器高2.6cmを測る。13～16は土師器の皿で、13・14はやや大型、15・16は小型である。13は口径11.9cm、器高2.5cm、14は口径12.3cm、器高3.0cmを測る。15は復元口径9.1cm、器高2.2cm、16は復元口径8.0cm、器高1.3cmを測る。16は土師質の鍋で、口縁部を肥厚する。17は瓦質土器の片口付摺鉢で、復元口径15.6cm、器高10.4cmを測る。内面に摺目が残る。

瓦（第11図、図版5）

第11図8は平瓦である。狭端部と側端部1面が残る。端部はヘラ切り後ナデである。

3. その他の遺構

調査区内ではいくつかのピットを検出し、うち1基から遺物の出土があった。

1号ピット（第10図）

第10図19は1号ピットから出土した土師器の皿で、底部表面に回転糸切りの痕が見られる。

第4章 まとめ

今回の調査で検出した遺構で、時期の想定が可能なのは、埋土中層から14世紀代の土師器皿が一括で出土した5号溝状遺構のみである。ただし、大型の2号溝状遺構は、その遺構配置から5号溝状遺構とはほぼ同時期に機能していた可能性が考えられる。過去の三沢寺小路遺跡の調査でも、14世紀代を中心とした遺構が確認されており、遺跡が南側にも広がることが確認された。

今回の遺構群の中で注目されるのが、2号溝状遺構である。狭い調査区ではあるが、直線的に南北に伸び、その規模からも区画溝と考えられる。ここからは、その2号溝状遺構を周辺の調査区で確認された区画溝と内容と比較し、その性格を推測したい。

これまでの調査で確認された区画溝として、まず3～5次調査で検出した正方位の溝がある。溝で区画された範囲は、東西71～74m、南北25m以上に及び、周辺に広がる遺構群の中心を占める施設である可能性が高い。溝自体は、最大幅約2m、最大の深さ約1mを測り、床面や壁面に段を持つことから、何らかの掘り直しが行われた可能性が指摘されている。今回の7次調査で検出した2号溝状遺構は、最大幅3.40m、最大の深さ1.36mと大型で、壁面も直線的に立ち上がる。規模や形状には大きな違いがある。

次に、2次調査及び三沢権道遺跡2次調査で検出した区画溝がある。この溝は正方位には乗らず、略東西方向から約65°南東に屈曲して南に延びる。溝の規模は、最大幅約3m、最大の深さ1.6mと大型で、断面形は逆台形状を呈する。なお、2次調査区では、この溝に沿って21基の土坑が列状に配置されていた。この土坑群は、検出面の大きさ1.8m×1.2m、深さ1.0m程度で、土壙墓の可能性が指摘されている。

以上のように、今回検出した2号溝状遺構は、規模・形状ともに後者と近い。つまり、「伝善風寺」に直接関わる施設ではなく、その周辺を区画するような大型溝であった可能性が高いと言えよう。今後の周辺の調査の進捗に期待したい。



第 12 图 三沢寺小路道跡遺構配置図 (S=1/2,500)

出土土物観察表

<土器等>

出土遺構	探洞 番号	図面 番号	群塊	注意(東元値)	色調	胎土	構成	成形・調整技法	備考
SD1	10-1	1	瓦質・灰緑	残存高3.0 外径19.0 内径15.0 底径15.0 高台径4.3	内灰黄 外に濃い赤褐色	厚 径2mm以下の砂粒をわずかに含む	良	内口付	
		2	白磁・緑	残存高1.9 高台径4.3	緑灰白	精微 径1mm以下の砂粒を多く含む	堅緻	高さ内径1/2出し 他は均成形	見込みと実台部とに砂目残存
SD2	上層	3	黄磁・緑	残存高4.6	軸行つ灰	精微 径1mm以下の砂粒をこわやかに含む	堅緻	均成形	
		4	土師黄・緑	残存高4.5	内外に濃い緑	粗 径2mm以下の砂粒を多く含む	良	口3/4付 内口付 外口付	
上層	5	5	黄磁・黄緑	残存高2.6	内灰黄 外灰黄緑～灰黄	やや粗 径2mm以下の砂粒をやや多く含む	堅緻	底・内径半分まで 内口3/4付後縁目 底・外口付	
		6	土師黄・黄緑	残存高3.0	内黄黄緑 外緑～明黄緑	ほぼ粗 径1mm以下の砂粒を少し含む	良	内口付 底・外口付 他は3/4付	
中層	7	7	土・赤?	残存高2.3	黄黄緑	ほぼ粗 径1mm以下の砂粒を少し含む	良	内口付	
		8	瓦質・黄緑	残存高3.9 底13.0	にない赤緑	粗 径3mm以下の砂粒を多く含む	良	内口付 底・外口付 縁板状工具による付 底・外口径5/8以上入り	
下層	9	9	黄磁・赤	残存高1.9	緑灰白	精微 径1mm以下の砂粒をこわやかに含む	堅緻	均成形	内面に染付
		10	土師黄・黄緑	残存高4.6	内緑灰黄 外に濃い黄緑 ～黄灰	粗 径2mm以下の砂粒をわずかに含む	良	縁部外面はのみ、他は3/4付 内口3/4 後縁目	
SD3	11	土・黒	残存高1.0	内外に濃い黒 外に濃い黒 ～黄灰	粗 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	内径短けず後子 底・外口径全入り 他は均成形		
SD5	12	5	白磁・緑	口10.4 高2.6 底径4.1	緑灰白	精微 径1mm以下の砂粒をこわやかに含む	堅緻	高さ1/2出し 他は均成形	見込みと砂目残存
		13	土・黒	口12.3 高3.0 底径4.4	にない黄緑	ほぼ粗 径1mm以下の砂粒を少し含む	良	底・内径短けず後子 内口全縁全入り後子 内口3/4 後縁目	底部外面に縦状圧痕
	14	5	土・黒	口11.9 高2.5 底径3.3	内黄黄緑 外にない黄緑 ～灰白	ほぼ粗 径2mm以下の砂粒を少し含む	良	底・内径短けず後子 底・外口全縁全入り後子 他は均成形	底部外面に縦状圧痕 器形の痕みあり
		15	土・黒	口9.1 高2.2 底径3.2	黒	粗 径2mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・内径短けず後子 底・外口全縁全入り後子 他は均成形	
	16	5	土・黒	口8.0 高2.2 底径3.4	にない黄緑	粗 径1mm以下の砂粒をわずかに含む	良	底・内径短けず後子 底・外口全縁全入り後子 他は均成形	底部外面に縦状圧痕
		17	土師黄・緑	残存高4.4	にない緑	やや粗 径3mm以下の砂粒をやや多く含む	良	口3/4付 内口付 外口径短工器具付	口縁部外面一縁部外面に全入り
	18	5	瓦質・片口付 黄緑	口15.6 高10.4 底径9.1	内灰白 外灰	ほぼ粗 径2mm以下の砂粒を少し含む	良	内口付・腹目 底・外口は均成形～5/8入り、他は均 短けず後子 底・外口付 内口短けず	
		19	土・黒	残存高1.0	灰白	ほぼ粗 径2mm以下の砂粒を少し含む	良	内口短けず 底・外口全縁全入り	

<瓦>

出土遺構	探洞 番号	図面 番号	群塊	注意(東元値)	色調	胎土	構成	成形・調整技法	備考
SD1	11-1	5	甲瓦	残存高12.1 残存幅11.9 残存底4.3	内外に濃い赤	やや粗 径10mm以下の砂粒をやや多く含む	やや不良 灰緑部へう切り後子・黄黄緑 割縁部へう切り 凹面・縦状圧痕付	灰緑部へう切り後子・黄黄緑 割縁部へう切り 凹面・縦状圧痕付	
SD2	中層	2	甲瓦	残存高11.8 残存幅11.1 残存底3.2	灰	粗 径3mm以下の砂粒を多く含む	良	灰緑部・割縁部へう切り後子 凹面付	
		3	甲瓦	残存高16.3 残存幅10.2 残存底3.5	内外、灰白～灰黄	粗 径3mm以下の砂粒を多く含む	やや不良	灰緑部・割縁部へう切り後子 凹面付・縦状圧痕付	
中層	4	5	瓦瓦	残存高9.5 残存幅8.2 残存底4.0	灰白	やや粗 径4mm以下の砂粒をやや多く含む	良	割縁部へう切り後子 凹面・唇目 凸面へう入り後子	
		5	甲瓦	残存高5.4 残存幅8.4 残存底2.6	灰黄緑	粗 径2mm以下の砂粒を多く含む	やや不良	灰緑部・割縁部へう切り後子 凹面・凸面付	
下層	6	5	甲瓦	残存高10.6 残存幅11.6 残存底3.3	灰	粗 径3mm以下の砂粒を多く含む	堅緻	縁部部へう切り後子 凹面・縦状圧痕付	割れ口に入付着
		7	甲瓦	残存高7.9 残存幅7.6 残存底2.7	灰黄	粗 径2mm以下の砂粒をやや多く含む	良	割縁部へう切り後子 凹面付	
SD4	7	甲瓦	残存高7.8 残存幅8.7 残存底2.2	にない黄緑	やや粗 径2mm以下の砂粒をやや多く含む	やや不良	灰緑部・割縁部へう切り後子 凹面・凸面付		



①西側調査区全景（南から）

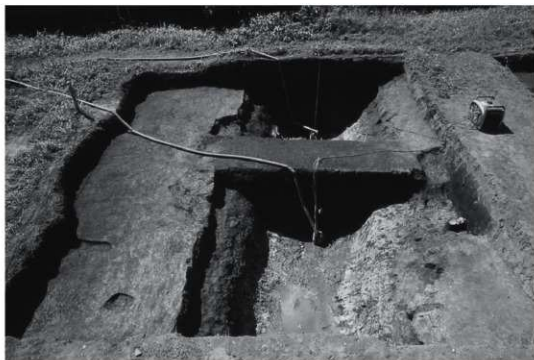


②西側調査区全景（北から）

図版 2



①東側調査区全景（南から）



②東側調査区全景（北から）



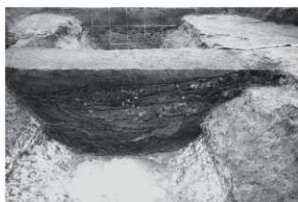
① 1号土坑土層断面 (南から)



⑤ 2号溝完掘 (南から)



② 1号土坑完掘 (南から)



⑥ 2号溝ベルト土層 (南から)



③ 1号溝完掘 (南西から)



⑦ 2号溝北端土層 (南から)

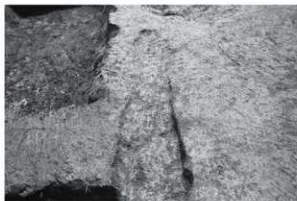


④ 1号溝完掘 (東から)



⑧ 3号溝完掘 (北東から)

図版 4



① 4号溝完掘（西から）



⑤ 3・5号溝土層断面（東から）



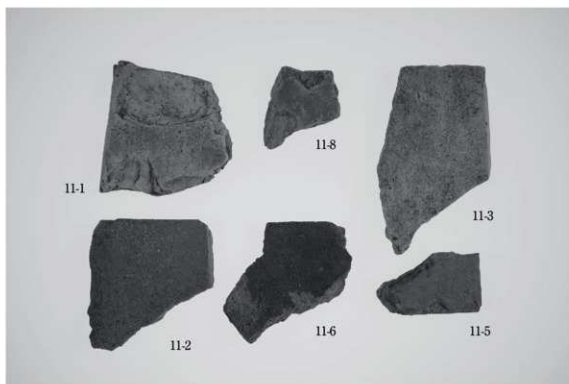
② 5号溝完掘（東から）



③ 5号溝東側調査区完掘（東から）



④ 5号溝東側調査区遺物出土状況（南東から）



報 告 書 抄 録

ふりがな	みつさわてらしゅうじいせき							
書名	三沢寺小路遺跡7							
副書名								
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第335集							
編著者名	杉本岳史							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 ☎0942-72-2111							
発刊年月日	2020年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みつさわてらしゅうじいせき 三沢寺小路 遺跡7	福岡県 小郡市 三沢	40216		33° 24' 50"	130° 33' 25"	2018.7.2 ～ 2018.8.6	171.6㎡	住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
三沢寺小路 遺跡7	集落	中世		土坑1基 溝状遺構5条		土師器 磁器 瓦		
要 約	<p>今回の調査で検出した遺構の中では、大型の2号溝状遺構が目される。大きさは、最大幅3.40m、最大の深さ1.36mを測り、断面は逆台形状を呈する。周辺では、三沢寺小路遺跡2地点・三沢権道遺跡2地点で同様の大型溝を検出しており、この溝が土坑等周辺の遺構と強い関連性を見せることから、今回の2号溝状遺構も土地を区画する重要な溝であった可能性が高い。</p>							

三沢寺小路遺跡7

小郡市文化財調査報告書

第335集

2020年3月31日

発 行 小郡市教育委員会

福岡県小郡市小郡255-1

印 刷 片山印刷(有)

福岡県小郡市紙園1-8-15